



公益社団法人 認知症の人と家族の会

えひめ支部だより 第 109 号

事務局 〒 790-0843 松山市道後町2丁目11-14

愛媛県看護協会内

電 話：089-923-3760 (直)

089-923-1287 (呼)

FAX：089-926-7825

E-mail : kazokunokai@nursing-ehime.or.jp

会員数 90 名 (1月 13 日現在)

ゆっくり やさしく おだやかに

【もくじ】

○年頭に思う事	田中 映 2
○全国研究集会(IN 山形)	森川 隆 3
	米谷 直美 4
	井上真喜子 4
○中国・四国ブロック会議参加して	鈴木 大 5
○つどいの心(西条)	大澤 孝市 6
○つどいの日程(4月～9月)	7
○お知らせ	8

愛媛県支部総会について



この会報は「赤い羽根共同募金」の一部分配金で発行しています



年頭に思うこと ～時間はいのちのかけら～

世話人 田中 映

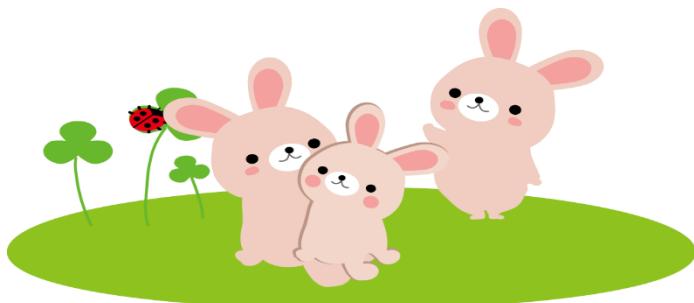
会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。落ち着いた正月を迎えることが出来ましたでしょうか？

年末に1年を振り替えるのですが、『1年が早く過ぎる』ということを年々感じるようになってきました。昨年は、その早さをより強く感じた1年であったと思います。

新型コロナウィルスという、数年前には想像すらしていなかったものが流行し、生活が一変しました。生活だけでなく考え方や人との付き合い方までが大きく変わり、今までの“当たり前”が当たり前でなくなっていました。介護についても、介護保険サービスの利用、施設や病院への面会の制限など、介護されている方の不安や辛さを思うともどかしい気持ちが募るばかりです。多くのことが、社会の在り方に合わせて変えていく必要に迫られています。“変える”ということはとても難しいことですが、家族の会としても、社会の在り方に合わせて、どのように役割を果たしていくか？という課題に向き合うことを求められているのかもしれません。

この状況の中でも、コロナと上手に向き合い、付き合いながら楽しみ見つけ、笑顔を忘れることがなく過ごされている方のお話を耳にすることが増えてきました。そのようなお話を聞きするととても嬉しくなります。“時間は命のかけら”という言葉がありますが、時間はすべての人に平等です。少しでも多くの方が、そのかけらを笑顔や楽しみで使っていけることのお手伝いができれば良いと思います。

今年も皆さまにとりまして良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。



全国研究集会（IN 山形）に参加して

支部代表 森川 隆

令和4年度の全国研究集会が11月6日に山形県で開催されました。まず、最初に女優の渡辺えりさんの特別講演がありました。介護体験や介護施設でのエピソードについてユーモアを交えて身振り手振りでお話をされ、その姿がまるで舞台を見るような臨場感にあふれていて、思わず講演に引き込まれてしまいました。笑いあり、涙ありの講演でした。

続いて、体験発表があり、「認知症になっても楽しく買い物ができる社会へ」で報告された発表で、認知症の方がお金の支払いを忘れて品物を持って行く行動を、「万引き」ではなく「未払い行動」という言葉に置き換えること、そしてその活動を広めていくことについては、大変参考になりました。愛媛県でも広めていくことが必要だと感じました。

午後からは「安心して語ることが出来る場の役割について」をテーマにシンポジウムが開催されました。様々な方の発表がありましたが、どの発表も当事者であるからこそ伝わるメッセージがあると実感しました。その中でも、特に「楽しき夫婦の旅を願って」の演題で発表された土田ご夫妻の話に心打たれました。

土田夫妻は奥様が認知症で、ご主人が介護されており、その介護体験の葛藤とイライラの日々をお話されました。土田さんは、クリスチヤンであり、神様に祈ると、「愛せよ・受け入れよ」と聞こえた思いがして、ありのままを受け入れよう、優しくしようと思うが、それでもイライラを抑えきれず、きつい言葉がでてしまう・・自責と焦りの中で悶々とし、何度も自分を責めたという。私も父の介護で、分かっていてもできなかつた日々と重なるものがあり、胸が熱くなりました。

何度も冷静になるよう心掛けでも、今、目の前にあるイライラをどうすることもできず、感情に翻弄される自分がいたことを、そして、先の見えない不安に押しつぶされそうになる自分がいたことを、ありありと思い出し、土田さんの言葉に深く胸を打たれました。土田さんは不安を抱える中、家族の会のことを知り、つどいに参加し、ほつとされたと言われていました。安心して語ることのできる場がいかに大切か、その場の役割について体験を通して語られたことが、私にとっては一番心に響く言葉でした。

研修集会に参加して、改めて家族の会の活動の必要を認識させて頂きました。学び、知ることがこれから活動の力になると思います。学んだことをこれから活動に活かせるように自分のできる範囲で一所懸命取り組んでいきたいと思います。

「冬来たりなば春遠からじ」春はもうすぐそこまで来ています。今年の春は、コロナが終息して、普通に花見が楽しめる事を願い、全国研究集会の報告とさせていただきます。



第38回全国研究集会 in 山形に参加して

世話人 米谷 直美

11月6日「やまぎんホール」において開催されました。

午前中の特別講演では地元出身の俳優で演出家の渡辺えりさんが「母ちゃんの笑顔が見たい」と題し、ご自身のお母さまの遠距離介護、面会時のエピソード、今年5月に亡くなられたお父様のこと、ご家族のことなど、スクリーンに映し出された写真を見ながら話してくださいました。笑いあり、涙あり、えりさんの心の葛藤が感じられるお話でした。

午後は体験実践発表とシンポジウムでした。認知症当事者が買い物に行き、お金を支払い忘れてしまう未払い行動。介護家族7年の方のお父様を看取られた話。当事者グループの夢が実現したカヌー作りの取り組みの報告。司法書士の成年後見人としての事例。つどい主催者と参加ご夫婦、原発事故帰還困難当事者かつ支援者、難病カフェ主催者かつ当事者など様々な立場の方の幅のある興味深い話を聞くことが出来ました。

改めて当事者が安心して語り合え、分かり合える人達がいることの大切さを感じることが出来たとても有意義な研究集会でした。



渡辺えりさん 井上さん 米谷さん

全国研究集会 IN 山形に参加して

世話人 井上真喜子

初めての全国研究集会、初めての山形県、久しぶりの県外、ということでワクワクしながら参加させていただきました。

山形駅の真ん前の立派な会場で、山形県支部の方々の素晴らしい笑顔と対応に迎えられて、気持ちよくお話を聴かせていただくことができました。本当にありがとうございました。

楽しみだったのは、なんといってもいつもTVで拝見している大女優で演出家の「渡辺えりさん」の講演です。山形弁で、気取らないありのままのお話を聞いていただきました。東京から毎月、面会に行かれた時のあったかいエピソードや熱すぎるえりさんの想いと職員さんとのやり取り、目に浮かぶようでした。

コロナ禍の制限で、3年間も全く触れることが叶わぬまま逝ってしまったお父様の事を話してくださっているときは、えりさんも会場の皆さんも涙、涙でした。そんな悔しい想いをされているご家族が全国にどれほどいるんだろう。もし自分が親の死に目に会えなかったら、どうなんだろうと考えるととても切なく苦しくなります。

講演が終わってから、えりさんと一緒に写真を撮っていただきました。これからは、その写真を何度も見返しながら、えりさんのように熱い想いで頑張ります！

令和5年1月8日～9日 中国四国ブロック会参加報告書

世話人 鈴木 大

今回初めてブロック会に参加させて頂き、各県の取り組みや、活動状況、経済状況を聞くことができて、大変参考になりました。

介護保険の改正内容に対して家族の会として署名活動などをしていることについて、「それも大事なことであるが、家族の会が注力すべきことはそこではなく、認知症への理解を広め、差別や偏見をなくしていくことではないか。」との意見にはハッとさせられると共に、いたく納得もさせられました。

各県の活動経費の状況については、行政から3千万円ほどの事業委託費がある県もあれば、ほとんど事業委託費がない県もあり、その差は活動内容にも大きく影響してくるものと思いました。

中には家族の会に専任の職員を配置している県もあり、その地域差の大きさに驚きました。

分散会の場では、「家族の会の役割は、本来は行政が担うべきもの」という意見もあり、これも目からうろこでした。

とは言え、今後国から潤沢な事業委託費などが得られる可能性が低いことも容易に想像できます。

経済的に苦しい状況があることは各県共通している課題であると共に、活動の大部分をボランティアで担っている実情がありながら、「ボランティアというものが時代に合わない」という声も複数あり、納得のいく意見であると共に根深い課題であるとも感じました。

各県共通の課題として、「世話人の確保、後継者の育成」があがっていましたが、世話人を確保する前に、家族の会の存在を知らない人も相当数いると思われるため、YouTubeやSNSなどを更に活用し、コンテンツを見直すなどして認知度を高めると共に、活動の意義や、やりがい、楽しさの発信を継続する必要があると思いました。

まとめ

広報、啓蒙活動の継続及び見直しを行い、認知度を高める。

家族の会自身が経済的自立できる様、収益構造をつくる。

会費の負担やボランティア活動部分を報酬体系化する。

以上のことについて、検討を重ねながら総合的に取り組むことが、会の存続、世話人の確保、後継者に育成に繋がるのではないかと思いました。

つどいの心

西条発



世話人 大澤 孝市

コロナ渦での開催を不定期に行い今年で13年目を迎えました。参加者も介護家族以外多岐にわたります。(包括支援センター・ケアマネ・看護師等) 介護者への気持ちの安らぎのため、気持ちの持ち方や介護方法等を話し合ってきました。最近は、参加者同士の情報交換が多くなってきました。日頃よりお互い介護をしながらライン友達になり介護者の本音で話せる家族ならではの同調、励ましの言葉で納得する気持ちになっています。新しく参加してこられる家族には優しい言葉かけを行っています。

今年度、西条市は包括支援センターを中心に「チームオレンジ」～認知症になつても安心して暮らせる町づくり～を発足に向けて取り組んでいます。家族の会も積極的に参加して協力しています。



“” 参加者の声 “”

糖尿病から認知症を発症されて

在宅にてご主人が奥様を介護しています。糖尿病を改善して認知症の進行を遅らせ、在宅でしっかりと見守っていくという決意でした。まず、食事の献立を変えていかれました。次に奥様の健康の為趣味のカラオケに行き体全体で歌うことを実施しました。認知症の進行は緩やかですが、確実に進んでいます。在宅生活を守りご主人の声掛けに奥様も納得された生活をされています。(二人の会話は笑顔)

会員継続のお願い

いつも公益社団法人「認知症の人と家族の会」愛媛県支部の運営につきまして多大なご支援・ご高配を受け賜わり厚く御礼申し上げます。

家族の会は会員の皆様の総合力で成り立っています。ひとりでも多くの方の協力が必要です。2023年度もぜひ会員継続をお願いいたします。また地域で認知症についてお困りの方等お声掛けをお願いします。

「つどい」のご案内 令和5年4月～令和5年9月

東予地区	西条市	新居浜市	四国中央市	今治市
開催日	4月12日 5月10日 6月14日 7月12日 8月9日 9月13日	4月27日 5月25日 6月22日 7月27日 8月24日 9月28日	4月21日 5月19日 6月16日 7月21日 8月18日 9月15日	令和5年度中止
開催予定	毎月第2水曜日 ※祝祭日は変更	毎月第4木曜日	毎月第3金曜日	
場所	西条市 総合福祉センター	地域交流サロン 「おひさま」	三島中之庄公民館 会議室2	
時間	13時～15時	13時～15時	13時30分～15時	
問い合わせ	089-923-3760 認知症の人と家族の会愛媛県支部 080-3740-0697 大澤（おおざわ） ※西条・四国中央 0897-46-5251 田中 ※新居浜			

中予/南予地区	松山市	宇和島市	三間 おしゃべり会	
開催日	4月10日 5月8日 6月12日 7月10日 8月21日 9月11日	4月19日 5月17日 6月21日 7月19日 8月16日 9月20日	4月4日 5月2日 6月6日 7月4日 8月1日 9月5日	
開催予定	毎月第2月曜日 ※祝祭日は変更	毎月第3水曜日	毎月第1火曜日 ※祝祭日は変更	
場所	愛媛県在宅介護 研修センター	宇和島市障がい者 福祉センター むつみ荘	三間 保健福祉センター	
時間	13時～15時	11時～13時	10時～12時	
問い合わせ	089-923-3760	0895-58-2322 (矢野)		

※松山のつどい8月の第2月曜日、14日はお盆休みとなりますので21日に変更します。

お知らせ

愛媛県支部総会について

日時：2023年5月20日（土） 13:00～

場所：愛媛県看護研修センター

議題：2022年度活動報告

2022年度決算報告

2023年度活動計画案

2023年度予算案

講演：予定 テーマ「意思決定支援について」

講師 鈴木 正幸氏（愛媛県社会福祉士会・事務局長）

つどいについて

つどいについては、ほとんどの会場で開催しております。新型コロナ感染状況によっては中止になることがあります。

それぞれの会場の問い合わせ先に確認してご参加下さい。

世話人募集

「家族の会」愛媛県支部では世話人を常時募集しています。

認知症を理解し共に歩める人、一緒に活動しませんか？

投稿のお願い！

支部だよりでは皆様のご意見・ご要望・ご感想・ご提案・短歌や俳句・介護体験など自由に募集しています。施設紹介もお待ち致しております。皆様のお力をお借りして、紙面の充実と会員相互の交流を図っていきたいと思います。事務局までFAX、郵送、メール等で宜しくお願いします。

編集後記

令和5年4月～9月の県下各地の「つどいの日程」を掲載しました。

コロナの感染防止をはかりながら、つどいを開催していきたいと思います。是非つどいにもご参加下さい。お待ちしております。



（編集委員 宮子・上岡）